

# 夜間定時制高校における1年間の取り組み

— 国語表現Ⅰの授業と学級通信を通して —

高野 英朗

## はじめに

本校は、単独の夜間定時制商業高校である。広島市中区に位置し、1学年40名の定員で、現在は在籍数150名弱である。1学年を2人の担任が約20名ずつ受け持つ仕組みになっている。6年前から単位制に移行し、74単位修得で卒業が認定される。また、近年受験者に占める不登校経験者の数が増え、全体の約6割の生徒が過去に不登校を経験している。ただし、本校に入学してからは、ほとんどの生徒が毎日登校するようになるが、その理由の解明は、本発表の目的では無いので省く。

このように長期にわたる不登校経験者が多いクラスで起こる出来事は、ほとんどが人間関係のトラブルである。「あの子は私の前ではこう言ったのに、他の子には違うことを言っていた。」「携帯の日記のサイトに、名前は出してないけど私の悪口を書かれた。」「クラスの雰囲気が悪いから、授業に出たくない。」など。クラスの集団の中でもまれた経験が不足しているからなのか、とにかく自分中心

の見方考え方をする。傷つくこと、人から嫌われることを非常に嫌う。友だちの前ではニコニコうなずいていても、違う人間にはその子の悪口を言ったり、携帯の日記サイトにつぶつたりする。そして、当然そのことが最初の友だちの耳に入り、人間関係が破綻する。そのくり返しである。

そんな教室で、クラス担任として何ができるか、国語の教科としてどんな力を付けさせるか。

今回は、3年生の国語表現Ⅰの1年間の授業の展開を通して振り返り、彼らにとって私の授業はどうであったのか捉え直したい。また、授業ではないが、私のクラス（現2年生）に配った1年間の学級通信を通して、本校の生徒たちに私は何を伝えたかったのか捉え直したい。

## 1. 国語表現Ⅰの2007年度の授業について

### 1—1. 国語表現Ⅰの授業の位置

本校は単位制を敷いており、国語総合の4単位（1年時と2年時

に2単位ずつ実施)もしくは、国語表現Ⅰの2単位(3年時)のいずれか1科目が必修科目となっている。4年時には、選択科目として国語表現Ⅱ(2単位)があり、同じく選択科目として2年生から4年生までの希望者が受ける現代文(2単位)が0限に設定されている。

現実には、1・2年生の全てが国語総合を履修し、3年生の全てが国語表現Ⅰを履修している。

1年生は、1学級を2つに分け20人の小人数学級で授業をしている。2・3年生も進学コースと教養コースに分け、同じく20人程度の小人数学級での授業になる。4年生の国語表現Ⅱと0限の現代文は、昨年度も今年度も8名程度が履修した。

国語表現Ⅰの授業は、教科書教材の選択にしろ投げ込み教材にしる教材選択の幅が大きく、授業者のねらいや意図が最も明確になると考え、今回の考察の対象に据えた。

## 1-2. 学習者の実際

3年A組B組から「進学コース」を選択した15名(男子6名、女子9名)と4年生2名(男子1名、女子1名)の合計17名。3年生のうち男子2名、女子4名の計6名は3年のうちに卒業単位を満了し、卒業した。(4大進学1名、専門学校進学1名、就職4名)

学習者の中には、広大経済学部(夜間)へ進学するためにセンター試験を受験する者もいる。だが、一方では、授業中に保健室に行って欠課する者もいれば、机の下で携帯電話をいじったり、ファッション雑誌やアルバイト情報誌を広げ、なかなか授業に参加

しない者もいる。

ただ、授業妨害やいわゆる「荒れた」感じは全くなく、おとなしい印象である。しかし、総じて授業への集中度は低く、やる気や知識欲もあまり感じられない。

## 1-3. 国語表現Ⅰの授業の実際の流れ

- 4月 1. 自己紹介文、前任の国語の指導者への手紙
2. 漢字検定4級受験への取り組み
3. 短歌創作(全日本ジュニア短歌大会への応募)
4. 言葉の力(大岡 信)
- 5月 5. 手紙と電話
6. 「わかりやすく表現するために」プリント①⑥

仮名と漢字の使い分け、読点の打ち方、主部と述部の対応、副詞の呼応、文の乱れを整える、係り受け、など。

7. 「バッテリー」(あさのあつこ、一部抜粋)
8. 1学期中間考査

07年1月16日朝日新聞天声人語「東洋大学『現代学生百人一首』についてのコラム」中の8首の短歌から共感できる一首について150字の短文を書かせる。

…14時間

- 6月 9. テスト返し、テスト直し
10. 擬音語・擬態語プリント①・②

「く〜く〜」と「たらたら」、「ぐずぐず」と「もたもた」のの違いなど(注1)

- 11 原稿用紙の使い方
- 12 漢字検定3級受験への取り組み
- 13 意見文の書き方（マップ法を中心に）  
1. 国際化 2. 環境 3. 情報 4. 福祉 5. 男  
女・家族・生活 6. 心理・教育 7. 科学技術 8. 医療の各分野56のテーマから1つを選択させ、マップ法の練習をさせる。
- 7月
- 14 1学期期末考査  
06年天声人語「子どもの昆虫採集は自然破壊か」を読んで300字程度の感想文を書かせる。 ……10時間
- 9月
- 15 夏休みの課題完成
- 16 短歌創作（ヤング短歌賞への応募）  
生徒作品相互評価
- 17 面接試験対策プリント①・②  
①面接試験でよく聞かれる項目を挙げ、そのうち2つについて回答を作らせる。  
②前時に出させた学習者の回答を載せ、気づきを出させたり、評価したりする。
- 18 通知文を作る  
11月の文化祭の案内を出身中学の先生に知らせるといふ内容。  
主文をまず作らせ、次時に学習者の文章を相互評価させる。
- 10月
- 19 キャッチコピーを考える
- 20 ③13種類の商品の既成のキャッチコピーを考える  
18で作成した通知文をパソコンで清書する
- 21 2学期中間考査  
・東京清掃局「別れるときには、お金がいります。」のコピーの優れている点について「捨てる」という言葉と比較して答えよ。文字数制限なし。  
・最近目にしたキャッチコピーを1つ挙げ、そのコピーの面白いところや優れている点について述べよ。文字数制限なし。 ……16時間
- 11月
- 22 キャッチコピーのあり方を考えるプリント  
07年10月12日付け朝日新聞「野菜ジュース “栄養不足”」の記事を読み、400字の文章を書く。
- 23 『枕草子』に参加してみる  
古語辞典の引き方
- 24 漢字検定3級の取り組み
- 25 短歌創作（日本短歌大会 in 広島への応募）  
生徒作品相互評価
- 12月
- 26 「勘違い言葉」プリント①②  
汚名を晴らす↓汚名をそそぐ、口先三寸↓舌先三寸など<sup>注2</sup>
- 27 2学期期末考査  
・「ヤング短歌」の優秀作を読み、そのうちの1つにつ

いて感想を述べよ。200字。

・04年11月18日付け朝日新聞天声人語「携帯電話について」を読み、その良い点と悪い点について述べよ。200字。

…11時間

1月 28 「敬語を学ぶ」プリント①～④

①～③ 尊敬語・謙譲語<sup>(注3)</sup>

④ 敬語動詞一覧表<sup>(注4)</sup>

2月 29 漢字検定3級の取り組み

30 敬語カルタを作り、カルタを取る

31 普段使う言葉を学ぶ（主に慣用表現）プリント①②

9冊の日本語関係の書籍から「試験問題を作ろう」というテーマで学習者に選ばせたものをプリント化し、学習した。

※30と31を組み合わせて、2月21日に広島市立高等学校の公開研究授業を行った。

32 映画鑑賞「台風クラブ」

33 学年末考査

1～4. 授業を振り返って

(1) 授業者の思い

「自分に自信が持てない」学習者が多い。中学時代に「不登校」であった者も多く、基礎学力がとてもし低い者がいる。また、自分の気持ちの主張はするが、言葉を選べないため、人間関係がうまく行かない。そのため、国語表現Ⅰの授業でも、「話す」力をつける場面、

例えば、他の者の前で発表することなどが必要だとは思いつつ、なかなか仕組むことができなかった。

それよりもまず、言葉に注目させ、様々な言葉を獲得させようと考えた。言葉の持つ微妙な違いや言葉の背景にある歴史などを知ること、少しでも語彙を増やして欲しいと考えた。そのために、教科書教材だけでなく、新聞記事の言葉を取り上げたり、慣用句や敬語を学習させたりした。

また、学習者自身に書かせた文章や短歌を授業の中で取り上げ相互評価させることで、自分の言葉が他人にどのように「受け取られる」のかについて学習させた。

(2) 表現するための「場」の設定

2 「前任の国語の指導者への手紙」、18 「通知文を作る」での文化祭の案内を出身中学の先生に向けて書かせたこと、19 「キャッチコピーを考える」で「大手商まんじゅう」を取り上げたことなどである。また、31「普段使う言葉を学ぶ」では、自分で調べた言葉について、グループ内と全体に対し発表する「場」を作ることができた。また、31では、プリントを作成するときに、「試験問題を作ろう」とか「教師を試す問題を作ろう」という形式にし、意欲を引き出すように工夫をした。

「書く」意欲に薄く、それ以前に授業へ参加する意欲に乏しい学習者を引きつけるため、できるだけ学習者に「書く」「考える」「話す」必然性を持たせるように考えた。

(3) 選択の幅を設ける

13 「意見文の書き方」、31 「普段使う言葉を学ぶ」などでは、選択肢を設け、学習者の意欲を引き出すように考えた。「意見文の書き方」では、8分野56のテーマの中から1つを選び、文章を書く下準備(マップ法)をさせた。選択肢をたくさん用意することで、自分にあつたテーマを選べると考えた。「普段使う言葉を学ぶ」では、9冊の書籍を用意し、自分が手にとりやすい本を選んで、調べさせるようにした。

いつも用意できるわけではないが、それぞれの興味によって学習できる場面があつても良いと考えた。

(4) 相互評価をさせる

16・25短歌創作では、生徒作品の相互評価をさせた。名前を伏せて、「最も共感できる短歌を2つ選べ。」という指示を出した。他の学年の作品も一緒に提示し、選ばせた。また、25では、最も共感した短歌の作者に一言メッセージを書くように促した。

19 「ギャッチコピーを考える」でも、同じように4年生で書かせたものを合わせて提示し、優秀作を選ばせた。

17面接試験対策プリントでの予想質問に対する回答、18「通知文を作る」の本文についても相互評価させた。

相互評価の良い所は、自分の言葉を相手がどう「受け取った」かを知ることができるという点である。指導者の評価でも良いが、自分の仲間が自分の短歌や文章をどう評価するかということは、とても気になることなのである。そのことで、自分の言葉を振り返る

とても良い練習になると思う。また、自分の作品が選ばれたときには、嬉しそうな顔をする。授業場面の中で、自尊感情を育てることができるといふ点でも、優れた方法である。

(5) 語彙を増やす

短歌創作やギャッチコピーの学習で、短い言葉に含まれる意味を考える。

10 擬音語・擬態語プリントで言葉の微妙な意味の違いを考え、26 「勘違い言葉」プリントで慣用句を学び、28 「敬語を学ぶ」プリントで「受け取る」側のことを意識し、31 「普段使う言葉を学ぶ」プリントで最近話題の「日本語の間違った使われ方」について考えた。

学習者の中の言葉の引き出しをできるだけ増やしたかったのである。そのことで、面と向かったコミュニケーションでも、相手も自分も傷つかずに済むように、言葉を選べるように、と考えた。

## 2. 2007年度1年生への学級通信について

2-1 学級通信への思い

本校はHRの時間が少ない。そこで、学級通信によって、日頃生徒たちの言動やクラスの状態を見て、担任として感じたことや伝えたいことをベーパーによって知らせようと思ったのである。普通は、学校行事やクラブ活動のこと、定期考査やクラスの様子のことなどを主たる内容にすることが多いと思うが、そういうことは月に一度発行する学年通信(学年と言ってもA、B2クラスしかないが)に

記載することにした。学級通信の名称は「気まぐれ通信」。担任のその時々感じたこと思ったことのみを不定期に記述し、配布した。担任自身の言葉だけでは生々しくなると思い、できるだけ他の人の言葉を引用する形で、自分の思いを伝えるようにした。

## 2-2 クラスの実際

私が担任したクラスは22名（男子7名、女子15名）。そのうち1名は4月当初から休学であり、3月まで復学することはなかった。また、年度途中に1名が休学。2名が退学した。

このクラスも中学時代、不登校を経験した生徒が12名いる。しかも、その日数も30日を超える生徒が6名も存在する。

クラス経営をするにあたっていつも頭を悩ませることは、クラス内の人間関係のトラブルである。そのことによって長期欠席になることもある。また、「教室にいるのが嫌」「教室の雰囲気が悪い」と言っては、授業中に教室を抜け出し、保健室で雑談をしたり、あるいは無断で早退してしまったりする。一人のこともあれば、2、3人で動くこともある。

経済的な面で非常に苦しい生徒も多く、学費を自分でアルバイトをして払っている生徒もクラス内に数人いる。また、家庭が成立していないように感じる生徒も多い。

生徒たちと話をしていくと、環境調査票からは読みとれない事実が次から次へと明らかになっていく。叱責や注意だけで生徒を指導することは難しい。話を聞きながら、配慮をしながら、しかし指導していく。私のクラスだけではなく他の担任も、常にこの配慮と指

導の間の境界線上で悩んでいる。

## 2-3 1年間の学級通信を振り返って

(1) 内容の流れ（カッコ内は引用した文章・言葉）

1 (4月18日) あせらずゆっくりマイペースで

(「協力の白石さん」)

：最初の通信

2 (4月25日) 親の恩を感じよう

(「今でも子どもで」産経「朝の詩」)

3 (5月8日) 母の生い立ちや生き方を見つめよう

(「さだまさし」「無縁坂」)

：2号と同じ趣旨。「母の日」にちなんで。

4 (5月25日) 職種の紹介 (江川紹子「人を助ける仕事」)

：現在だけでなく将来を考えて欲しいという気持ちで。

5 (6月5日) 考えて言葉を出そう

(水谷修「こどもたちへ」)

：授業の好き嫌いが始め、罵る言葉を言い始めたので。

6 (6月12日) 人づきあいを大切に (さおり織りの写真)

：クラス内の人間関係にトラブルが発生した頃。

7 (6月19日) 相手のことを考えよう―モンスタ―にはなり

たくない (朝日「天声人語」)

：「友だち」という言葉で相手をしぱり始めた頃。

8 (7月4日) 愛は最も近いところから始まる

(マザー・テレサ)

…性教育での「愛の反対は無関心」という言葉から

9 (9月5日) やり始めないとやる気が出ない (糸井重里)

…残暑厳しく、だるさが蔓延した教室で

10 (10月12日) 「和顔」と「仏頂面」(四字熟語「和顔愛語」)

…「仏頂面」が目立つ教室で

11 (11月2日) 他人の良いところを見よう

(「日なた水」産経「朝の詩」)

…友だちの短所ばかりをあげつらう毎日

12 (12月5日) 集団で学ぶ意味と周囲への感謝を

(流行語大賞、東国原宮崎県知事)

…大手商の文化祭「大手祭」を終えて

13 (12月14日) 人として為すこと (「偽」今年の漢字)

…偽装続きの世の中に

14 (1月18日) 大人って何だろう?

(谷川俊太郎「成人の日に」)

…他人のうちに醜さばかり見つける生徒に

15 (1月22日) 「丹田」に力を入れて姿勢を正そう

…全商簿記3級の補習と寒さにうちひしがれている生徒に

16 (2月18日) 自分が生きている限り誰かを「支えている」

…「私なんて生きている意味無いんだ」と言った生徒に

17 (3月4日) 思いやりと豊かな心 (大手商の校訓)

…「思いやり」という言葉の意味(私見)

2-4 1年間の学級通信からの読みとり

1-5号ぐらいまでは、まだ一般的な内容だが、6号からは、その内容のほとんどが「人間関係」に関するものになっていく。これは、この6月にクラス内の人間関係が理由で長期欠席になった女子がいるためである。私自身の感受性に訴える文章や記事が、どうしてもその方向のものになってしまったことの現れでもある。

その生徒に限らず、2学期には不調を訴える者が増え、家庭訪問や中学校訪問の数も増えた。なぜそこまで生徒たちがくじけてしまうのか、その理由が分からなかった。2-2「クラスの実際」でも述べたように、家庭的にまた経済的に不幸な生徒の姿が浮かび上がってくる。私の生い立ちからはとても想像がつかない環境なのである。そのため、授業に出ずに保健室に居たり、特設LHRをサボって教室に居たりしても、叱責することはあまり意味がない。まづ、その生徒の話を聞く。聞き出す。そこから始めるしかなかった。もちろん、何度もそういう場面を繰り返した生徒とは、ある程度の信頼関係ができて、指導すべき時は指導することもできるようになるのだが。

また「聞く」場合は、「聞く」ことに徹底して、助言や指導は入れないように努力する。助言や指導は、また別の機会に行うことにするのである。しかし、個人に対してはそれで良いのだが、クラス経営をするためには、やはり伝えておきたいことがある。担任として「こうして欲しい」「こうあって欲しい」ということを、この学級通信に載せるようにした。全体に対して言えば、個人が傷つく度合いは少なくなる。HRの時間が少ない以上、こういう手段で訴えるの

も1つの方法のように思えた。

気をつけたのは、他の人の言葉をできるだけ私自身の体験に引きつけて紹介したり、生徒たちの日常の場面を取り上げて、理解しやすくしたことである。また、言葉が相手にどう「受け取られる」かということについて、考えさせるようにしたことである。例えば7号の「モンスターにはなりたくない」は、珍しく生徒には好評であった。しかし、誰かを「モンスター」と言っては喜んでいる生徒は居ても、自分も「モンスター」かも知れないと自省する生徒は少なかったようだが。

### 3. まとめ

まだ1年と半年しか本校の生徒に接していない。彼ら彼女らの人間関係作りの下手さが、どこから来るものなのか把握していない。しかし、言葉を中心としたコミュニケーションで上手くいっていない以上、「読む」「書く」「聞く」「話す」それぞれの力を養う国語の授業の役割は大きい。

#### 3-1 自尊感情を高める工夫

自分が傷つくことを極端にいやがる。直接の会話で本心を出さないのは、相手を気遣うように見せて、その実、本心を言うことで「〇〇は平気で人の嫌なことを言う」などと他人から思われたくないからである。つまり自己防衛である。自分が傷つくと、泣く、教室から逃げる、学校に来なくなるということになる。

自分に自信が無いために、より一層、人の意見や考えに左右されてしまう。授業場面の中で、あるいはクラス経営の中で、何とか学習者の自尊感情を高める場面を設定していく必要を感じる。

#### 3-2 生きた語彙、深みのある言葉の獲得

我々大人は、たとえ相手とのやりとりの中で面白くないことがあったり、人との会話で嫌だと思っても、あまりストレートには表現しない。また、「違う」と思ってもその時は傾聴し、違う場面での時のことを含めて相手に伝えたりする。しかし、「言葉の引き出し」の味が少なければ、どうしてもストレートな表現にならざるを得ない。まず、生きた語彙を獲得させる必要があるように思う。

また、できるだけ先人の優れた文章（特に文学作品）や言葉を紹介していきたい。深みのある言葉を獲得していくことで、自分の表現にも柔らかさが出てくるし、「受け取り」にも余裕が出てくると思う。

#### 3-3 「聞く」あるいは「聴く」学習の必要性

今回自分の授業を振り返ってみて、特に足りないと感じたことがある。それは、「聞く」学習である。我々も日常会話の中で、「話す」こともするが、「聞く」ことも多い。また上手に「聞く」ことのできる人は、表現者の真意を十分に引き出ししてくれる。私は、「読む」ことでの言葉の「受け取り」は意識していたが、「聞く」ことでの「受け取り」について指導の中で考慮していなかった。もし、学級集団が「聞く」あるいは「聴く」練習を積むことで、人の話を「聞ける」



集団に変わったら、人間関係も壊れずに済むかも知れない。特に本校のように場の雰囲気を読むことが苦手な生徒が多い集団においては、相手の真意を読む練習は必要であると感じた。今後の課題である。

#### 4. 終わりに

本校に勤務していると、現代の高校生の直接のコミュニケーションが危機に瀕していることがよくわかる。人間関係のほとんどが、メールや携帯の日記サイトによって形成されている。直接顔を合わせた場面でのやりとりは「建て前」であり、自分の意見や考えはメールや日記サイトに吐き出す。直接のやりとりで自分が傷つくの恐れるからである。

私は、このメールや日記サイトでのやりとりを「裏」の会話と呼んでいる。自分の思いだけを文字にぶつけ、吐き出す。あるいはのしる。それは言葉を「受け取る」側への意識が非常に薄い行為である。これを果たして「表現」と呼べるのだろうか。

直接のコミュニケーションにおいても、そういう傾向が強い。自分の思いや感情だけを一方的に相手に伝える。相手側が「ふんふん」ニコニコと自分が傷つくことを恐れてその場では合わせるため、ますます面倒なことになる。そして聞き手の真意は「裏」の会話で披露される。それを知った表現者が傷つく。

受け手を意識した表現の工夫や「聞く」「聴く」指導の工夫を早急に考えなければならぬと感じている。

また、学会での発表後、複数の方から「絵本の読み聞かせ」についての提案を受けた。とてもありがたく拝聴した。本校の生徒の「心を耕す」方法として、有効であると感じた。実践にうつしてみた。

#### 〔注〕

1 『擬音語・擬態語』使い分け帳 山海堂 山口沖美・佐藤有紀を参考にした。

2 『勘違いことばの辞典』東京堂出版 西谷裕子編 を参考にした。

3 『表現読解国語辞典特装版『語彙増殖ワークブック』』ベネッセコーポレーション 沖森卓也・中村幸弘編 を参考にした。

4 『面白いほど身につく敬語の練習帳』中経出版 日向茂男 を参考にした。

#### 5 9冊の書籍

『NHKことばおじさんのナットク日本語塾Vol.1』

NHKサービスセンター 日向研二【編】

『問題な日本語—どこがおかしい？何がおいしい？—』

大修館書店 北原 保雄【監修】

『続弾！問題な日本語—何が気になる？どうして気になる？—』

大修館書店 北原 保雄【監修】

『問題な日本語（その3）』

大修館書店 北原 保雄【監修】

『かなり役立つ日本語ドリル—問題な日本語番外—』

大修館書店 北原 保雄【監修】

『かなり役立つ日本語ドリル（2）—問題な日本語番外—』

「日本語おもしろ雑学練習帳

敬語篇」

大修館書店 北原 保雄【監修】

「日本語おもしろ雑学練習帳

誤用篇」

新講社 日本雑学能力協会【編著】

新講社 日本雑学能力協会【編著】

「間違えると恥ずかしい日本語500」

河出書房新社 日本語倶楽部【編】